

誰ひとり 取り残さない 医薬品を。

治療がないと言われた病気に希望を届ける。

それがJCRの使命です。

私たちは、患者さん一人ひとりの普通の生活を取り戻すため、

革新的な技術と情熱を持って挑み続けています。

研究から製造まで、すべてを一貫して行う数少ない会社として、

世界初の医薬品を生み出し、

未来を変える力を信じています。

革新をもたらす
JCRの技術

未来への扉を開く、
JCRの挑戦

ある母親は言いました。
この薬がなければ、
私たちは普通の生活を夢見ることすら
できなかった、と。

治療がなかった
病気に、
新たな希望を届ける

誰ひとり取り残さない 未来を目指して。

治療法のない希少疾病に向き合う患者さんとそのご家族——JCRは、その切実な声に応えるために存在しています。限られた治療法、見過ごされがちな疾患。それでも、患者さんにとってその現実を日々を大きく左右する重い課題です。だからこそ、私たちは一つひとつの課題に向き合い、前へ進んできました。

私たちは独自の技術力と研究開発の姿勢を強みとし、これまでの限界を超えてきました。例えば、世界初の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」は、治療法がなかった疾患に新たな可能性を生み出し、多くの患者さんとそのご家族に希望を届ける一歩となりました。私たちの取り組みは、単なる技術革新ではなく、患者さん一人ひとりの「未来を拓く選択肢」を広げることに他なりません。

この使命を果たすために、JCRは世界へと目を向け、グローバルな医薬品開発体制を築いています。欧州、日本、米国、南米の各地が連携し、地域ごとの特性や規制に合わせた活動を進めています。国や地域を超えたチームが一丸となり、一日でも早く医薬品を届けるために力を尽くす——これこそが「JCRならではの」強みです。

研究開発を基盤に、技術革新とグローバル展開を通じて新たな未来を形にしていきます。患者さん一人ひとりの可能性を信じ、限界を超えたその先へ——これからも私たちは挑戦し続けます。

「JCRの研究と技術革新」

希少疾病に向き合うということ

世界には、3億5,000万人もの希少疾病患者がいるとされています。しかし、その95%にはいまだ治療法がありません。治療の選択肢がない現実と向き合いながら、多くの患者さんとそのご家族は「希望」を求め続けています。

希少疾病とは、患者数が極めて少ない疾患の総称です。それぞれの疾患の患者数は少ないですが、疾患の種類は5,000~8,000種類にも及び、決して無視できるものではありません。遺伝性、感染症、環境要因——原因はさまざまですが、いずれも重篤かつ進行性で、患者さんの生活を大きく制限する疾患がほとんどです。

治療法が存在しない背景には、個々の市場の小ささ、科学的知見の不足や臨床試験における被験者数の限界といった多くの障壁があります。けれども、こうした課題こそが、私たちが挑むべき使命なのです。

技術革新「J-Brain Cargo®」が届ける希望

希少疾病の中でも、脳に関わる疾患は治療が極めて難しいとされてきました。その理由は、「血液脳関門」という壁が存在するためです。脳は異物の侵入を防ぐため、薬剤が血液から脳内に届くことを遮断します。この壁は、治療薬の脳内到達を阻む大きな課題となっていました。

JCRの血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」は、この課題を打ち破り、薬剤を脳内の患部へ届けることを可能にしました。これにより、これまで届かなかった治療の可能性が広がり、希少疾病患者さんとそのご家族に新たな希望がもたらされました。

その代表例が、ライソゾーム病の一種であるムコ多糖症Ⅱ型の治療薬「JR-141」です。ライソゾーム病は、体内の酵素の欠損または働き低下により、不要な物質が細胞内に蓄積することで発症します。従来の治療薬では脳内へのアプローチが難しかったのですが、「J-Brain Cargo®」を用いた「JR-141」は、全身の症状に加えて脳、脊髄にも効果が期待される画期的な治療薬です。日本での承認・発売を経て、現在は米国、欧州、南米で臨床試験が進んでおり、世界中の患者さんへと治療の選択肢が広がっています。



希少疾病の患者数

世界全体で
3億5,000万人



希少疾病の原因

希少疾病の
80%は遺伝性



希少疾病の種類

5,000~
8,000種類

※出典：IFPMA (国際製薬団体連合会) 2017年作成資料「希少疾患—誰も置き去りにしない未来を創る」

さらに、JCRはムコ多糖症Ⅱ型以外のライソゾーム病に対しても「J-Brain Cargo®」を適用し、複数のライソゾーム病疾患への治療薬について海外を含めた臨床試験が進行しており、治療法がなかった患者さんたちに、確かな一歩を届けることを目指しています。

JCRの「J-Brain Cargo®」は、単なる技術革新にとどまりません。それは、治療が届かないという限界を超え、患者さん一人ひとりに「新たな治療の可能性」と「未来への希望」を届けるための挑戦そのものです。

さらに、私たちはライソゾーム病の一種である「フコシドーシス」のような、世界で120例程度しか症例がないとされる超希少疾病にも取り組んでいます。他社が手を出しづらい領域だからこそ、JCRが果たす役割は大きいと考えています。

未来をつくるJCRの使命

希少疾病に向き合うことは、終わりのない挑戦かもしれません。それでも、JCRは、これからも「新たな治療の選択肢」を形にし続けます。一つひとつの技術が、世界中の患者さんの希望となる未来へ。技術と情熱で、可能性を超えていく。私たちの挑戦は、まだ始まったばかりです。



患者さんの声から生まれた
「J-Brain Cargo®」 開発ストーリー

「どうか、うちの子を救ってほしい」
その言葉が、研究者としての私の人生を変えました。



取締役 専務執行役員 研究担当、研究本部長

藪田啓之

私は2003年にJCRに入社し、ライソゾーム病の研究に取り組んでいました。ライソゾーム病は、細胞内の酵素が欠損し、不要な物質が分解されずに蓄積することで全身に重い症状を引き起こす希少疾病です。しかし、当時の技術では脳へ薬剤を届けることができず、中枢神経系症状を改善することは不可能とされていました。

2005年、私はムコ多糖症患者会に参加しました。そこで、車椅子に座る子どもたち、寝たきりで栄養チューブをつけた子どもたち、ご家族が涙ながらに語る闘病の様子を目の当たりにし、そのすべてに私の心は揺さぶられました。隣に座っていた女性が、私を医師と勘違いして「どうか息子を救ってほしい」と訴えました。私は医師ではなく製薬会社の研究者だと伝えましたが、「それでもいいから話を聞いてほしい」と彼女は続けました。

そのお子さんは、3歳ごろから症状が現れ、進行すると意思疎通ができなくなってしまうタイプのムコ多糖症でした。

私はその場で何も言えませんでした。医師ではない、ただの研究者である私に、今すぐにはできることは何もない。けれど、その言葉は私の胸に焼き付きました。

「研究者として、私にできることがあるはずだ」

「できない」と言われた壁に挑む

当時、治療薬を脳に届けることは「不可能」と言われていました。脳には「血液脳関門」という壁があり、外部からの薬剤を通さない構造があるためです。しかし、脳に症状を引き起こすムコ多糖症を治療するためには、この壁を越えなければなりません。

「何があっても、壁を越える技術を見つける」

そう決意して始まった研究は、失敗の連続でした。何度もデータはゼロを示し、出口の見えない日々が続きました。それでも、「先生、息子を救ってください」というあの言葉が、私を奮い立たせ続けました。

研究を進めるうち、脳が鉄分を取り込む際に使う「トランスフェリン受容体 (TfR)」という仕組みを応用する技術に可能性を見出しました。この技術なら、薬剤を脳内に届けることができるかもしれない。まず、マウスを用いた実験で薬剤が血液脳関門を通過し、脳に到達することを確認しました。次にサルでの実験でも同様の結果が得られ、「これなら人にも届く」

そして、ついに2017年。

「薬が、血液脳関門を越えて脳に届く」ことを臨床試験のデータで確認した瞬間、これまでの苦しみが一気に報われた気がしました。私たちの技術は、ついに「届かない壁」を越えたのです。

「J-Brain Cargo®」の誕生

こうして、血液脳関門を通過する革新的な技術「J-Brain Cargo®」が誕生し、この技術を用いた「JR-141」は、ムコ多糖症Ⅱ型の治療薬として形になり、日本で承認を受けました。そして今、米国、欧州、南米で臨床試験が進んでいます。

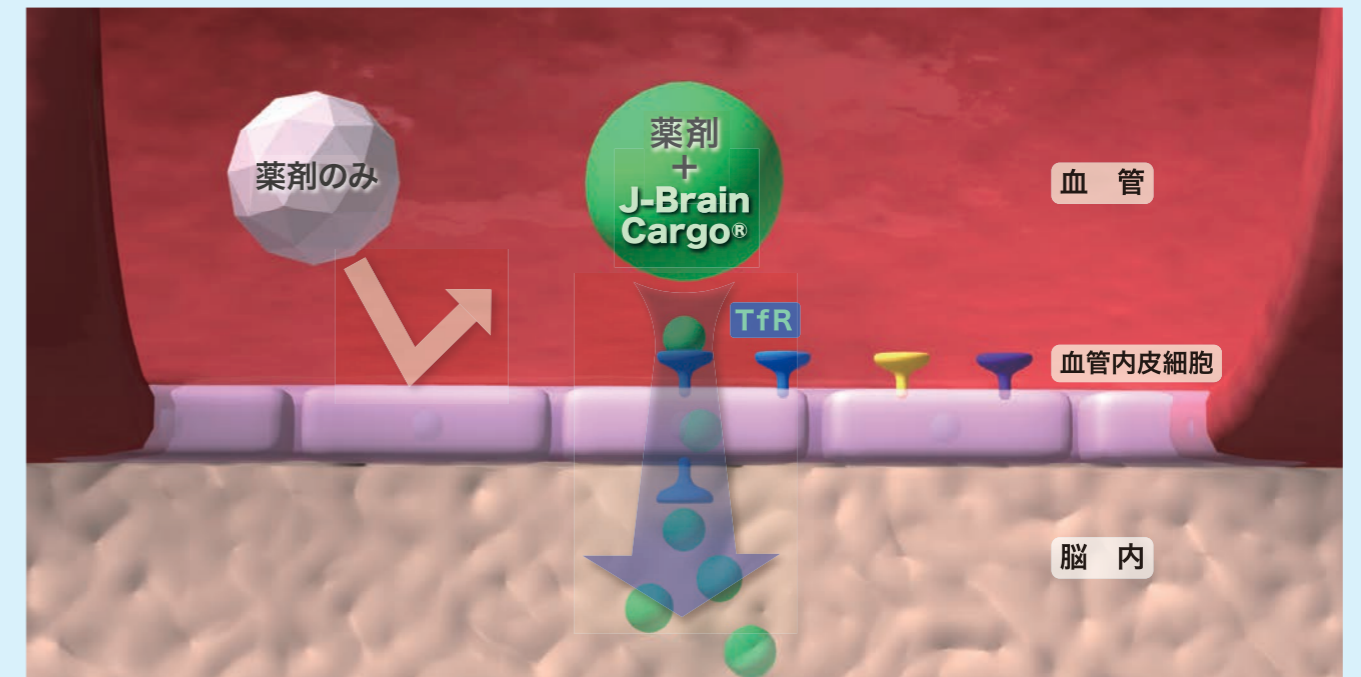
あの日、私に言葉をかけてくれたお母さん、そして子どもたちの声がなければ、「J-Brain Cargo®」は生まれなかったかもしれません。これまで治療法がなかった患者さんにとって、新たな希望の光が見えたのです。

「患者の声が、すべての原動力」

私がこの研究を始めるきっかけとなったのは、患者さんのご家族の切実な声でした。「どうか救ってほしい」。その願いに応えるために、私たちは不可能と言われた壁に挑み、超えてきました。

JCRは、これからも技術を磨き続け、治療が届かない患者さん一人ひとりに「未来への希望」を届けるために歩み続けます。

「J-Brain Cargo®」の仕組み



壁を越え、未来を切り拓く 「J-Brain Cargo®」が生んだ 世界初の医薬品

「どうしても救いたい」という強い思いから生まれた血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」。その技術はついに臨床現場で実を結び、世界初の医薬品が生まれることとなります。

患者さんとともに歩んだ「JR-141」開発の軌跡

「届かない」という壁を超えた技術が、患者さんに届く瞬間を迎える。

JCRの「J-Brain Cargo®」を基盤に開発されたムコ多糖症Ⅱ型治療薬「JR-141」は、治療が難しい脳の症状へのアプローチを可能にした画期的な医薬品です。

希少疾病の臨床試験は、患者数の少なさや小児患者への配慮など、数多くの課題を伴います。それでも2017年、ムコ多糖症Ⅱ型の臨床試験がスタートし、わずか半年間で目標としていた12例の患者さんが参加。「一日でも早く治療を届け

たい」——その思いに応えて、ご家族や医療従事者が手を携えてくれた結果でした。試験は順調に進み、臨床データは確かな効果を示しました。

2018年、先駆け審査指定制度の指定を受け、JCRはさらにスピードを上げました。臨床試験開始からわずか4年後、2021年3月、「JR-141」は「イズカーゴ®点滴静注用」として日本で製造販売承認を取得します。その背景には、JCRの研究者やチーム一丸となった努力と、「一日でも早く患者さんに届ける」という強い使命感がありました。

世界が認めた「J-Brain Cargo®」

「J-Brain Cargo®」を活用した「JR-141」は、国際的にも高い評価を受けました。2022年、ライソゾーム病領域に貢献した革新的な治療法として、国際学会「18th Annual WORLDSymposium™」でNew Treatment Awardを受賞。この受賞は、世界中の研究者が「不可能」とされてきた課題をJCRが打ち破り、実用化に成功したことへの称賛の証です。

「この技術は新たな治療の扉を開いた」

「脳へ薬剤を届ける——他の疾患にも応用できるのでは？」

授賞式では、世界中の専門家が技術の詳細や今後の展望に大きな関心を寄せ、JCRの挑戦が新たな可能性を広げることが実感されました。

JCRは現在、「J-Brain Cargo®」の技術を基盤に、ライソゾーム病領域において17を超える開発品に取り組んでいます。さらに、技術の応用範囲を広げ、他の難治性疾患や遺伝子治療領域にも挑戦しています。

「JCRでしか作れない医薬品を」——不可能を可能に変える医薬品を、1日でも早く、より多くの患者さんに届けること。その挑戦の歩みを止めることはありません。その先に広がる未来に向けて、私たちは進み続けます。



遺伝子組換えムコ多糖症Ⅱ型治療剤「イズカーゴ®点滴静注用」

ライソゾーム病治療薬の開発パイプライン

基礎研究	前臨床	臨床試験 (第Ⅰ/Ⅱ相)	臨床試験 (第Ⅲ相)	承認申請	承認取得
JR-194 (パッテン病乳児型)	JR-471 フコシドーシス	JR-171 ムコ多糖症Ⅰ型 (ハーラー症候群等)	JR-141 ムコ多糖症Ⅱ型 (ハンター症候群)	JR-141 ムコ多糖症Ⅱ型 (ハンター症候群)	JR-141 ムコ多糖症Ⅱ型 (ハンター症候群)
クラベ病	JR-162 ボンペ病	JR-441 ムコ多糖症ⅢA型 (サンフィリップ症候群A型)			
GM1ガングリオシドーシス	JR-443 ムコ多糖症Ⅶ型 (スライ症候群)	JR-446 ムコ多糖症ⅢB型 (サンフィリップ症候群B型)			
CLN2 (パッテン病遅発乳児型)	JR-479 GM2ガングリオシドーシス (テイサックス病、サンドホフ病)				
ゴーシェ病					
α-マンノシドーシス					
ニーマンピック病					
異染性白質 ジストロフィー					
ガラクトシアリドーシス					

2025年1月現在



「J-Brain Cargo®」が切り拓く 遺伝子治療の未来

希少疾病の中には、遺伝子の欠損や異常が原因で発症するものが多く存在します。しかし、治療薬を脳内に届けることは長年の課題でした。血液脳関門という壁がその障壁となり、患者さんとそのご家族にとって治療法の選択肢が限られていたのです。

この「届かない」という課題を解決するため、JCRは血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」を応用し、新たな可能性を切り拓いています。そのひとつが、遺伝子治療分野におけるアデノ随伴ウイルス(AAV)への適用です。AAVは遺伝子を運ぶ「運び手」として注目されていますが、脳や筋肉に十分な量を届けることが難しく、さらには肝障害のリスクも大きな課題となっています。

JCRは2017年から、このAAVに「J-Brain Cargo®」の技術を融合させる研究に取り組んでいます。この新しい技術は、血液脳関門を通過し、効率的に遺伝子を脳細胞へ届けることができる仕組みです。マウスやサルでの非臨床試験では、この技術が脳内に遺伝子を効率的に届けることが確認され、肝障害のリスクも低減されるという成果が得られました。

この革新的な成果は、2024年に第7回国際ライソゾーム病フォーラム、およびEuropean Society of Gene and Cell Therapy (ESGCT) 31st Annual Congressで発表されました。AAVを用いた遺伝子治療において「血液脳関門を通過する」という技術は、世界中の研究者や医療関係者にとって画期的なニュースとなり、大きな反響を呼びました。

「これは治療の新しい選択肢になる」

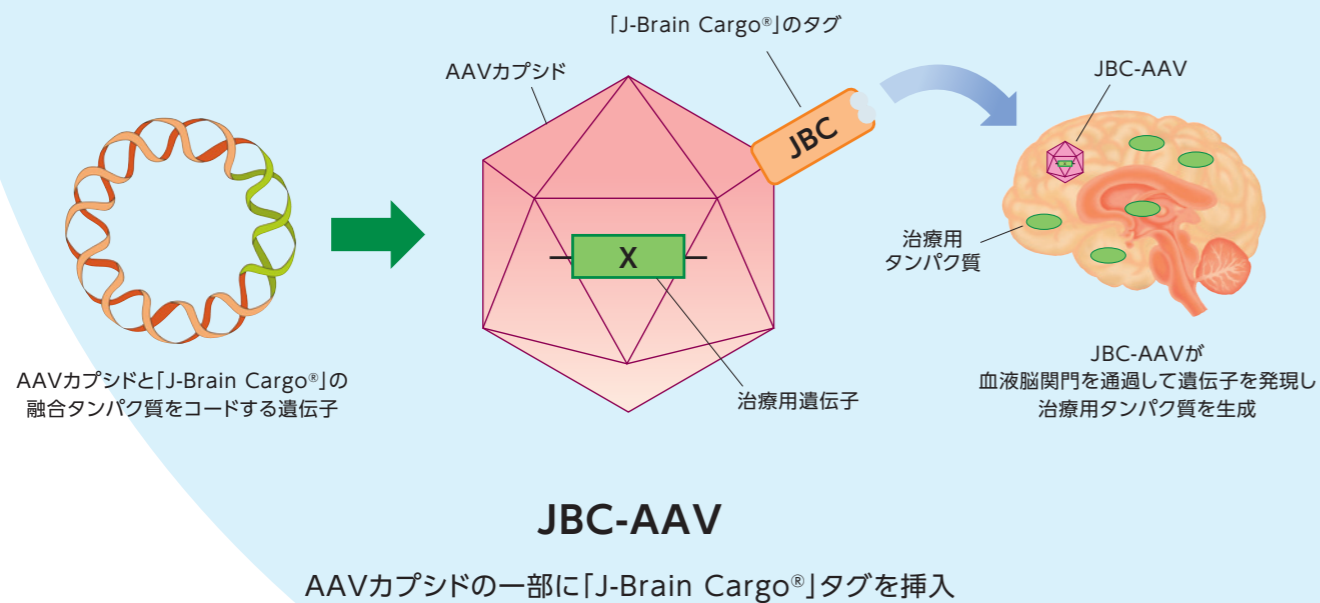
「他の難治性疾患にも応用できるのではないか」

発表会場では次々と質問が寄せられ、この技術がもたらす未来の可能性に期待が集まりました。

JCRは現在、「J-Brain Cargo®」技術を遺伝子治療にとどまらず、抗体医薬や核酸医薬といった他の治療法にも応用すべく研究を進めています。さらに、グローバル企業との提携も強化しており、例えば2023年にはアレクシオン社と神経変性疾患における「J-Brain Cargo®」の研究を開始し、初のマイルストーンを達成しました。同年にはアンジェリーニファーマ社と提携し、てんかんの新たな治療薬開発に向けた共同研究も進行中です。

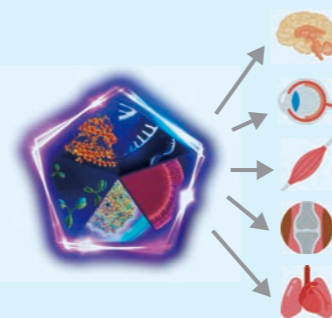
JCRが掲げる目標はただ一つ。「不可能」とされた治療法を現実のものにし、より多くの患者さんへより早く届けること。そのために革新的なパートナーシップとたゆまぬ研究を通じて、私たちは単に医療を進展させるだけでなく、患者さんの未来に新たな可能性を描いています。

「J-Brain Cargo®」を適用した遺伝子治療



独自の技術が生み出すJCRの未来

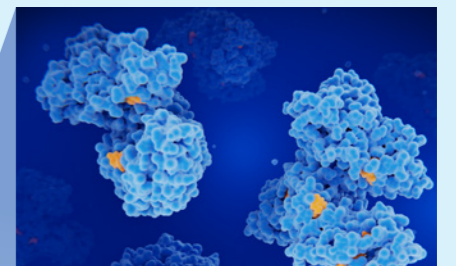
「J-Brain Cargo®」を
基盤とした
広く応用が可能な技術



技術導出の拡充
共同研究のさらなる増加



様々な疾患領域において 画期的な治療薬を創製



- ライソゾーム病
- 神経変性疾患
- 眼疾患
- 骨系統疾患
- 筋疾患

JCRのグローバル展開 「世界中の患者さんに治療薬を届けるために」

JCRは、希少疾病を抱える患者さんの人生を変えるため、革新的な治療法を、住む場所に関係なく届けることを使命としています。現在、欧州、日本、米国、南米の4つの拠点が一体となり、効率的な臨床試験や薬事申請を推進しています。

その中核を成すのが、ライソゾーム病領域での治療薬開発です。JCRの技術革新「J-Brain Cargo®」を活用し、これまで届かなかった脳への治療薬を実現する取り組みは、すでに成果を見せ始めています。

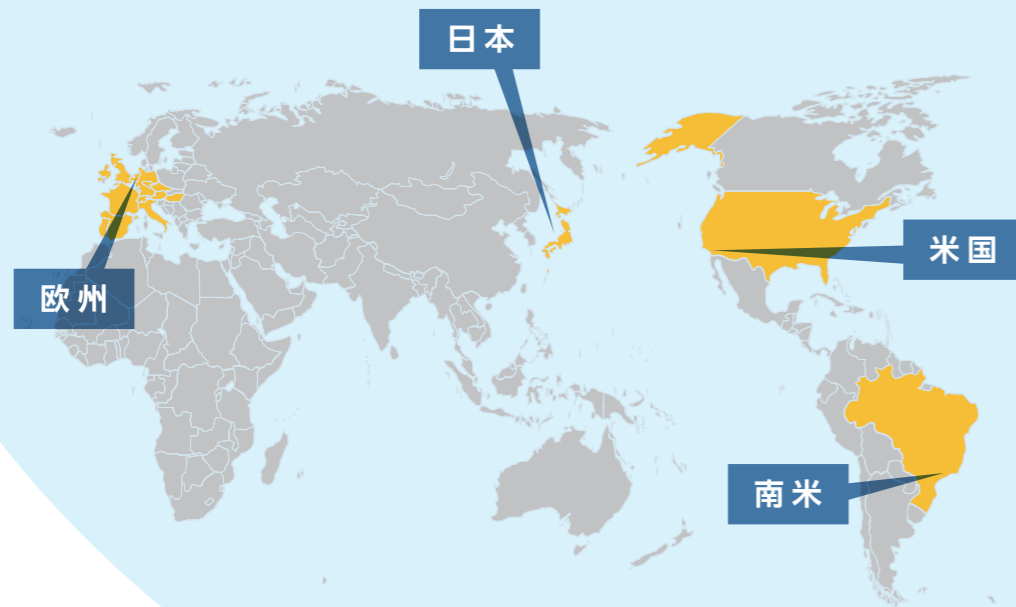
ムコ多糖症II型治療薬「JR-141」は、2021年に日本で承認され、現在は米国、欧州、南米でグローバル臨床試験が進行中です。また、その他のライソゾーム病治療薬として、ムコ多糖症I型治療薬「JR-171」やムコ多糖症III A型治療薬「JR-441」も臨床試験の段階に進んでいます。これらの治療薬は、単なる研究成果ではなく、世界中の患者さんにとって新たな希望の光となっています。

JCRのグローバル展開は、単に市場を広げることを目的とするものではありません。それは、地域ごとに異なるニーズや規制に対応し、治療薬を必要とする患者さん一人ひとりに確実に届けるための取り組みです。

私たちは「チームJCR」として世界中の知見を結集し、治療法の開発を迅速かつ確に進めています。また、神経変性疾患の研究やてんかん治療の革新に向けた分野のリーダーたちとの協力を通じ、これまで薬が届かなかった脳の治療の可能性を切り拓いています。こうした挑戦は、患者さんの未解決の課題に応えるために革新と協力の力を最大限に活用している証です。

JCRの原動力は、すべての患者さんがより良い未来を手にするチャンスを持つべきだという揺るぎない信念です。革新を指針とし、協力を力に変えることで、不可能とされていた治療を必要とする人々に届ける未来を描いています。

グローバル開発拠点



主な開発品目の進捗 (2025年1月現在)

■ ライソゾーム病 ■ その他バイオ医薬品

開発番号	開発品目	適応症	地域	前臨床	臨床試験	承認
JR-141	血液脳関門通過型 遺伝子組換え イズロン酸-2-スルファターゼ	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	グローバル		臨床第III相試験	
JR-142	遺伝子組換え 持続型成長ホルモン	小児成長ホルモン 分泌不全性低身長症	日本		臨床第III相試験	
JR-171	血液脳関門通過型 遺伝子組換え α-L-イズロニダーゼ	ムコ多糖症I型 (ハーラー症候群等)	グローバル		臨床第I/II相試験	
JR-441	血液脳関門通過型 遺伝子組換え ヘパランN-スルファターゼ	ムコ多糖症III A型 (サンフィリップ 症候群A型)	グローバル		臨床第I/II相試験	
JR-446	血液脳関門通過型 遺伝子組換えα-N-アセチル グルコサミニダーゼ	ムコ多糖症III B型 (サンフィリップ 症候群B型)	日本		臨床第I/II相試験	
JR-471	血液脳関門通過型 遺伝子組換え α-L-フコシダーゼ	フコシドーシス	—	前臨床		



企業理念に基づいた事業活動を通じて、持続可能な社会の発展に貢献します。

JCRは、「研究開発力」と「モノづくり力」で希少疾病や超希少疾病とともに生きる世界中の患者の皆さんとご家族に新しい治療機会を届けることを使命と考えています。

この使命に共感する「チームJCR」の事業活動・信念は「誰一人取り残さない (No one will be left behind)」という持続可能な開発目標 (SDGs) の精神につながります。高品質な医薬品を安定供給しつつ環境に配慮した生産体制の構築はもちろんのこと、JCRが持続的な成長を続けるうえで取り組むべきKPIを策定し、社員一人ひとりが自らの課題として活動することで、サステナブルなグローバル社会の実現に取り組んでいきます。世界中の患者の皆さんとご家族の声に応え続けたいからこそ、「JCRだからこそできるサステナビリティ」の実現を通じて、JCRに関わる全ての人と多様なステークホルダーから選ばれる会社であり続けます。



取締役 専務執行役員
サステナビリティ担当役員

芦田 透

サステナビリティの基本姿勢

JCRは、「医薬品を通して人々の健康に貢献する」という企業理念のもと、1975年の創業以来、時代を先取りしたバイオ技術、細胞治療・再生医療技術で、希少疾病用医薬品を中心としたアンメット・メディカルニーズ (未だ満たされていない医療ニーズ) に応える画期的な新薬の創製を目指しています。

地球環境や社会を取り巻く状況・課題は、年を追うごとに変化していますが、JCRは医薬品メーカーとしての事業活動を通じて持続的な企業価値創造を図り、持続可能な社会の発展に貢献することが重要であると考えており、「希少疾病:Rare Diseases」、「環境:Environment」、「社会:Society」、「コーポレート・ガバナンス:Corporate Governance」を重点領

域として取り組みを推進しています。特に、「希少疾病:Rare Diseases」はJCRの事業活動と密接に関係し、JCRだからこそ貢献できる領域です。超希少疾病に対しても治療薬の開発と新たな事業モデルの構築を進めてきたほか、医薬品へのアクセス向上にも取り組んできました。患者の皆さんの人数が少ない超希少疾病であっても「JCRだからこそできること」に積極的に取り組むことで、誰一人取り残さない社会の実現を目指します。

サステナビリティの重点的な取り組み

希少疾病 (RD)		
<ul style="list-style-type: none"> 希少疾病の治療選択肢の提供 		
環境 (E)	社会 (S)	コーポレート・ガバナンス (G)
<ul style="list-style-type: none"> 自然環境への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 革新的な基盤技術の創製 バイオ医薬品のグローバル供給体制の構築 成長を支える人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> 高い倫理性のある経営

サステナビリティの推進体制

常に変化する社会およびJCRを取り巻く状況・課題に対して、経営と一体となって深度ある議論や戦略の策定を行うため、「サステナビリティ諮問委員会」、「サステナビリティ委員会」、「環境委員会」を2022年7月に設置し、全社一丸となって、「JCRだからこそできるサステナビリティ」に取り組んでいます。

サステナビリティ諮問委員会

社内取締役、独立社外取締役、執行役員で構成しており、サステナビリティ委員会から取締役会に上程される事項に関する意見を述べる。

サステナビリティ委員会

サステナビリティ担当役員を委員長として、社内各本部から選出された社員により構成され、重要課題 (マテリアリティ) の特定、ESG関連の各種取り組み課題の検討・提案、進捗状況のモニタリングおよび、取締役会への報告などを行う。

環境委員会

社内取締役および社内から選出された社員により構成され、事業活動を通じた環境負荷を長期的なビジネスや社会に及ぼすリスク要因として捉え、環境に配慮した事業活動の実践に取り組む。

重要課題(マテリアリティ)

カテゴリ	重要課題	現在の取り組み	重要指標	2023年度の結果	
				実績値	説明
RD 希少疾病	希少疾病の治療選択肢の提供	<ul style="list-style-type: none"> 希少疾病(超希少疾病を含む)に対する新薬の創製・開発 患者の皆さんとご家族を中心とする製品展開と活動 治療機会の拡大 希少疾病へ持続的に取り組むための事業モデルの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床試験開始数(目標:2027年度までに5品目) 	<ul style="list-style-type: none"> 1品目 	<ul style="list-style-type: none"> ムコ多糖症ⅢA型治療酵素製剤「JR-44」のグローバル臨床第I/II相試験開始 患者・家族会との交流、疾患やニーズの理解(16カ国36団体) 社員参加型希少疾病啓発イベントの実施(RARE DISEASEプロジェクト) 「イズカーゴ®点滴静注用」による新たな治療選択肢の拡大

カテゴリ	重要課題	現在の取り組み	重要指標	2023年度の結果	
				実績値	説明
E 環境	自然環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素経営 環境負荷軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物(廃プラスチック類)のリサイクル処理によるCO₂排出量の削減率 	<ul style="list-style-type: none"> 47% 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル素材を使用したレンタルユニフォームを採用 使用済みユニフォームを原材料として回収・循環 ペーパーレス化推進(GMPに係る文書や記録を電子化) 再生紙100%トレットペーパー(水に流せる芯&包装紙) 社用車を電気自動車へ切り替え 取締役会や経営会議のペットボトル飲料配布の取りやめ

カテゴリ	重要課題	現在の取り組み	重要指標	2023年度の結果	
				実績値	説明
S 社会	革新的な基盤技術の創製	<ul style="list-style-type: none"> 革新的な基盤技術の創製 戦略的パートナーシップの構築 	<ul style="list-style-type: none"> パートナーリング数 	<ul style="list-style-type: none"> 2件 ※公開情報のみ 	<ul style="list-style-type: none"> アレクシオン社と「J-Brain Cargo®」技術を用いた核酸医薬品の創製に関する共同研究、選択権およびライセンス契約を締結 アンジェリーニファーマと、てんかんに対する新規生物学的治療薬の開発と商業化に向けたグローバル提携を締結

カテゴリ	重要課題	現在の取り組み	重要指標	2023年度の結果	
				実績値	説明
S 社会	バイオ医薬品のグローバル供給体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> バイオ医薬品の製造技術力の発展 品質保証体制・安定供給体制の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 行政処分の対象となる各国規制当局からの指摘事項(目標:0件) 製品の品質による製品の欠品・回収(目標:0件) 	<ul style="list-style-type: none"> 0件 0件 	<ul style="list-style-type: none"> 成長ホルモン製剤「グロウジェクト®」増産体制の早期構築による安定供給の実現 工程改善による業務の効率化

カテゴリ	重要課題	現在の取り組み	重要指標	2023年度の結果	
				実績値	説明
S 社会	成長を支える人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 動的な人材ポートフォリオの構築(能力開発と教育) ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進 働き方改革の推進 技能承継の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 直近5年新卒採用女性比率平均 社員1人あたりの研修費用 	<ul style="list-style-type: none"> 44.7% 95,000円 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代グローバルリーダー育成を目指した「JCRアカデミー」の運営(第1期修了、第2期開始) 継続的な事業所内保育所の運営、保育助成金の支給 「くるみん」「えるぼし(2段階目)」の認定企業 「第2回ひょうご・こうべ女性活躍推進認定企業(ミモザ企業)」認定

カテゴリ	重要課題	現在の取り組み	重要指標	2023年度の結果	
				実績値	説明
G コーポレート・ガバナンス	高い倫理性のある経営	<ul style="list-style-type: none"> 高い倫理性のあるガバナンス 高い透明性の確保 風通しが良く、不正を許さない組織風土の醸成 リスクマネジメントの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 役員従業員間コミュニケーション活動実施回数 取締役会の実効性評価の継続実施および改善提言事項*の対応率(目標100%) 社外取締役比率 内部通報対応数 	<ul style="list-style-type: none"> 26件 100% 58.3% 16件 	<ul style="list-style-type: none"> 【コミュニケーション活動の事例】 現場ウォーク 役員、従業員昼食会 改善提案表彰式 営業本部全体会議 JCRグループワークショップ&ビジット 社員向け決算説明会 【リスクマネジメント活動】 リスクマネジメント推進会議を年2回(7月、1月)実施 【コンプライアンス研修】 コンプライアンス研修を年4回

※詳細は、コーポレートガバナンス報告書の該当箇所をご参照ください。

希少疾病領域における貢献

RARE DISEASEプロジェクト

RARE DISEASEプロジェクトは、「希少疾病にJCRのできること」を合言葉に、部門横断的に結成された社内啓発プロジェクトです。希少疾病への理解を深めるための情報収集・社内への情報発信、患者会や希少疾病支援団体との連携・支援活動を行っています。できるだけ多くの人に参加できるように、固定メンバーとせず2年の任期を定めています。

社内における啓発活動として、Rare Disease Day (RDD) に合わせたオフィシャルバッジの着用や募金活動、MPS Awareness Dayに向けたグローバルな啓発活動や市民公開講座の開催、患者会や希少疾病支援団体のイベント参加レポートなどの配信、社内講演会などを行っています。



■2023年度の主な取り組み

- 2023年度は、患者さんとそのご家族をお招きし、社内講演会を開催しました。その模様を録画し、当日参加できない社員もアーカイブ視聴するなど、社内啓発活動に努めました。
- また、2023年度は各地で開催されたいくつかの患者と家族の会へRARE DISEASEプロジェクトメンバーが参加しました。
- 2023年12月には神戸海星女子学院高等学校、大阪明星高等学校、鶴岡工業高等専門学校の生徒の皆さんをお迎えし、RDD高校Study Tour (JCRインターンシップ) を実施しました。RDプロジェクトメンバーによる業務紹介や座談会などを通して、高校生の皆さんに希少疾病や当社の取り組みについて学んでいただきました。
- 2024年2月の世界希少・難治性疾患の日(Rare Disease Day)に向けて、社内講演会に加え、チャリティグッズの制作、

募金、折り鶴ポスターの制作、疾患啓発クロスワード企画等の社内啓発活動を実施しました。

MPS Awareness Day (世界ムコ多糖症啓発デー)

JCRは2021年度に、米国のムコ多糖症患者支援団体「MPS Society」が主催する5月15日のMPS Awareness Dayに向けたグローバルな啓発活動を始動しました。

2023年度も啓発のテーマカラーであるパープルやムコ多糖症啓発のメッセージを含む写真を全社的に募集し、各事業所においてポスターとしてダウンロードできる形で社内掲示板にて配信を行い、また、集まった写真の数に応じて「MPS Society」への寄付を実施しました。そのほか、ハンドメイドのパープルリボンバッジの着用や、MPS啓発に関するニュースレターの社内掲示板配信を行いました。

Rare Disease Day (世界希少・難治性疾患の日)

JCRは、2015年度からRDDに協賛しています。希少・難治性疾患に苦しむ人は世界中にいますが、患者数が少なく、病気のメカニズムが複雑なため、治療薬・診断方法の研究開発がほとんど進んでいない例もあります。RDDはより良い診断や治療による希少・難治性疾患の患者の皆さんの生活の質の向上を目指して、スウェーデンで2008年から始まった活動です。この取り組みが、患者の皆さんと社会をつなぐ架け橋となり、希少・難治性疾患の認知度向上のきっかけとなることが期待されています。



サステナビリティの詳細については、Webサイトをご参照ください。
<https://www.jcrpharm.co.jp/sustainability/index.html>

基本的な考え方

JCRグループでは、良質でより有用な医薬品・医療用機器を社会に提供するため、経営の適法性、透明性、そして客観性を高めることを目指し、さらに企業価値を高めることと同時に、株主の利益保護を担保する体制を構築することが重要であると考えています。そのため有効な内部統制システムの整備・運用を確保し、その有効性の評価を自ら行い、企業としての社会的責任を果たすべく努力していきます。

コンプライアンスについては、法令、グローバルスタンダード、業界の各種規範などを遵守するとともに、高い倫理観を醸成する企業風土を日々の企業活動のなかで育むことが重要であると認識しています。

ガバナンス体制の概要

JCRは、監査役会設置会社の形態のもとで、社外取締役6名を含む11名で構成される取締役会、社外監査役5名で構成される監査役会および会計監査人を設置しています。

これらの機関のほかに経営統括委員会、指名・報酬等諮問委員会、サステナビリティ諮問委員会、経営会議、内部監査部、内部統制委員会、コンプライアンス委員会、サステナビリティ委員会、安全衛生委員会、環境委員会、寄付審査委員会およびリスクマネジメント推進会議を設置しています。ガバナンスの構成としては、JCRの現状で業態に即した適切な規模であり、効率的な経営が可能と考えています。また、社外取締役6名、社外監査役5名を含んだ現状のガバナンス体制は、経営の透明性、客観性(公平性)および経営監視の独立性確保に有効であると判断しています。

取締役・監査役のスキルマトリックス (2024年10月31日現在)

		スキル														
		経営全般	業界知識	Global経験	研究開発	生産	営業	ICT	行政経験	法務	税務 財務 会計	サステナ ビリティ	リスク マネジメント	その他		
取締役会	芦田信	代表取締役 会長兼社長	●													
	芦田透	取締役 専務執行役員	●	●								●				
	藪田啓之	取締役 専務執行役員		●		●							●			
	檜山義雄	取締役 常務執行役員			●		●				●					
	アンドレア・スベッチ	取締役 常務執行役員	●	●	●	●										
	末綱隆	取締役 (独立/社外)			●					●	●			●		
	依田俊英	取締役 (社外)	●	●		●										
	林裕子	取締役 (独立/社外)	●							●			●		ダイバーシティ& インクルージョン	
	跡見裕	取締役 (独立/社外)		●		●								●		
	フィリップ・フォシェ	取締役 (独立/社外)	●	●	●										事業開発 メディカルアフェアーズ PR ガバメントアフェアーズ	
マーク・デュノワイエ	取締役 (社外)		●	●	●											
監査役会	大泉和正	監査役 (独立/社外)	●													監査実務
	山田一彦	監査役 (独立/社外)	●							●		●		●		
	宮武健次郎	監査役 (独立/社外)	●	●							●					
	小村武	監査役 (独立/社外)	●							●		●				
	谷修一	監査役 (独立/社外)	●	●						●						

コーポレート・ガバナンスの詳細については、「コーポレートガバナンス報告書」をご参照ください。
<https://www.jcrpharm.co.jp/ir/governance.html>

会社概要

会社名	JCRファーマ株式会社
所在地	兵庫県芦屋市春日町3番19号
代表	代表取締役会長兼社長 芦田 信
設立	1975年9月13日
資本金	90億6,186万円
従業員数	997名(連結) 951名(単体)

連結子会社

- 株式会社クロマテック
- 株式会社JCRエンジニアリング
- JCR USA, Inc.(米国)
- ArmaGen, Inc.(米国)
- JCR DO BRASIL FARMACÊUTICOS IMPORTAÇÃO E EXPORTAÇÃO LTDA.(ブラジル連邦共和国)
- JCR Europe B.V.(オランダ王国)
- JCR Luxembourg S.A.(ルクセンブルク大公国)
- JCR INTERNATIONAL SA(スイス)

持分法適用関連会社

- AlliedCel株式会社(合併会社)

株式情報

上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
証券コード	4552
発行済株式総数	129,686,308株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
会計監査人	有限責任監査法人 トーマツ
株主数	22,888名

大株主

株主名	持株数(単位:千株)
株式会社メディカルホールディングス	29,131
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,976
フューチャーブレイク株式会社	8,711
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	7,820
野村信託銀行株式会社(A信託口)	6,298
キッセイ薬品工業株式会社	4,918
住友ファーマ株式会社	3,400
持田製薬株式会社	2,200
JCRファーマ従業員持株会	1,285
国立大学法人京都大学	1,000

※当社は、自己株式を3,922,502株保有していますが、上記大株主からは除外しています。

編集方針

「JCRレポート2024」は、経営ビジョンの実現に向けた成長戦略の進捗と、「JCRでなければできないこと」に挑戦し続ける事業活動の全体像を幅広いステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう、経営・財務情報を中心にサステナビリティに関する活動を含む非財務情報も加えたアニュアルレポートとして編集しています。

「JCRの強み」をできる限り分かりやすく示すために、情報を精査し、絞り込んだ内容を掲載しています。

事業活動の詳細については、Webサイトをご参照ください。
<https://www.jcrpharm.co.jp>

- 対象期間**
 2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)
 ※一部、2024年度の内容も含まれます。
- 対象組織**
 JCRグループ(JCRファーマ株式会社、連結子会社および持分法適用関連会社)
 ※上記対象範囲と異なる場合は、注記で示しています。
- 表示単位**
 原則として表示単位未満を切り捨て。
 ただし、億円単位で表示した金額は、表示単位未満を四捨五入。

見直しに関する注意事項

「JCRレポート2024」における開発見直し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知ください。そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決などがありますが、これらに限定されるものではありません。

一緒に、その先へ。

JCRは、2025年に創業50周年を迎えます。

その先の未来へ向けて、他社より常に「一歩前が出る」ことに

挑戦し続けるチャレンジ精神を受け継ぎ、

日本発・世界初となる医薬品を創製し、

一人でも多くの患者さんとそのご家族に貢献します。